

龍村 仁 監督作品

地球交響曲 第八番

私達日本人の身体の中には遙か縄文の昔から1万年近くに渡って聴き続けて来た樹の精霊の歌声が、かすかな残響波となって今も響き続けています。

世界の人々が称賛する日本の伝統文化の美は樹の精霊との出会いによって生まれ、洗練されて来た、と言えるでしょう。

東日本大震災から4年、人智を遙かに越えた宇宙的な力に依ってもたらされた崩壊と苦難から立ち直り、真の復活を遂げる為に、私達日本人は今、何に気づき、何を成さなければならないのか。

「樹の精霊の声、すなわち宇宙の声を聴く力を甦えさせなければならない」と気づいた日本人たちがいます。

「地球交響曲第八番」では、この人々の想いと活動を世界に向けて発信します。

地球の未来の全ての生命が健やかに、永く生き続けることを願って。



木にひそむ音楽、海に眠る荒ぶる神、火に甦る太古からのときめき、いのちを畏れ尊ぶ神話的な感情が、ヒトと自然とのかかわりを繰り返し更新することを、この映画は美しい映像で教えてくれる。

谷川俊太郎 (詩人)

たくさんの木の声を聞ける人達に会って来て思い当たったことがある。木は共に生きる友人として、人間を選んだのではないだろう。少し乱暴で浅はかだが、人間たちは時間を考察し、命を考えることができる。確かに、人間達は建物にして千年の命を延ばし、叩き共鳴し奏を奏で、形にして命を再現させることが出来る。選んだのは彼等だ。

塩野米松 (作家)

ちねっと97(地球交響曲上映ネット97)は、1997年からドキュメンタリー映画「地球交響曲」シリーズの自主上映を続けているグループです。自主上映は女性主体のグループが多い中、当グループは男性主体で、これまでに主催・協力を含めて24回の自主上映会を開催しています。メンバーは常時募集中です。「地球交響曲」シリーズの自主上映にご興味のある方はご連絡ください。毎月、例会開催いたします。

ちねっと97事務局(岩崎) Tel.090-3527-3486
arigat_arigat@yahoo.co.jp

樹の精霊に 出会う

奈良県吉野にある天河大辨財天社の宝物庫に600年間眠り続けてきた能面「阿古父尉」に訪れた復活の時。観世流能楽師三代目元雅によって奉納された能面の写しが現世に蘇り、演者に乗り移った「宇宙の意志」は、時空を越えた幽玄の世界へ人々を誘ってゆく。

梅若玄祥
能楽師・人間国宝

見市泰男
能面打

柿坂神酒之祐
天河大辨財天社宮司

樹の精霊の 声を聴く

「ストラディヴァリウスは単なる楽器ではない、魂を宿した有機体・すなわち生き物。魂=樹の精霊は、歴代の名演奏家達が奏でた音魂を記憶し続けている。」と語る中澤宗幸は、東日本大震災の津波で流された楓や松を用いて「津波ヴァイオリン」を製作。ヴァイオリンの響きが奏でる「樹の精霊の声」に耳を傾ける。

中澤宗幸
ヴァイオリン製作者

中澤きみ子
ヴァイオリニスト

心に樹を植える

海の汚れの原因が森の荒廃にあると気付いた畠山重篤は植林運動を展開。気仙沼の海は青さを取り戻していたが、津波によりカキは全滅。4年に一度の室根神社の大祭で大役を担った彼の「魂」の復活と「海」の復活を描く。

畠山重篤
カキ養殖業
NPO「森は海の恋人」理事長

畠山 信
三男
NPO「森は海の恋人」副理事長

山と海はつながっている。
森と水は兄弟である。
樹木は音と舞と神様を秘めている。

松岡正剛 (編集工学研究所所長)

樹々との聞きあいの中で、人類の叡智を結集したこの壮大な交響曲。それは何も言わず、ただ観ていただきたいと思う。龍村監督の心に共感する。ベートーヴェンの第九交響曲に匹敵する龍村仁の第九交響曲を心から待ち望んでいます。

小林研一郎 (指揮者)

2011年、東日本大震災が起り、日本中が動転するような事態を招いたが、まさにこういう時代にこそ「地球交響曲」が必要とされるのではないかと。自然が尊いのは生命をつなげていくからで、一本の樹木が姿を消したとしても、そのまま生を終えることはない。そうした鎮魂の思いをこめてつくられた第八番の完成を心から祝福したい。

植島啓司 (宗教人類学者)

